様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年３月３１日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2008
課題番号：１９５２０１２１
研究課題名（和文）　境界における東アジア文化の受容と継承―松浦・平戸地方の中国･朝鮮･日本の美術作品
研究課題名（英文）　On the Acceptance and Succession of the Eastern Asian Buddhist Art in the Far West Region, Japan: Research of Chinese, Korean and Japanese Art Buddhist Art around Matsuura and Hirado

研究代表者　中西　真美子(NAKANISHI MAMIKO)
崇城大学・芸術学部・講師
研究者番号:60331071

研究成果の概要：
日本の最西北端において古来他国に開かれた門戸の役割を果たし、東アジアの海上ネットワーク上の要衝地であり続けた松浦・平戸地方は、常に国内外との活発な交渉・交流を保ち続けた地でもあった。2 カ年間、当地方の仏教美術の悉皆的な調査を行うことにより、仏教美術を通して、その地域的特性と当地方で活躍した松浦党の文化の受容と継承の様相の一端を明らかにし、当地方の仏教美術の特色と様相についてのより詳細な解明への端緒を開いた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
年度			
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：美学・美術史
科研費の分科・細目：美術史
キーワード：仏教美術　松浦　平戸　佐世保　上五島　松浦党

１．研究開始当初の背景
日本の最西北端に位置する松浦・平戸地方は、遣唐使・遣新羅使船の往来にあたってしばしば寄港地となり、日本臨済宗の祖栄西が宋からの帰朝の折には入港地であった。古代末には広域的な海民の根拠地であり、豊富な海産物を提供するとともに、駿牛御厨牛をはぐくむ宇野御厨を擁し、また、中世文書や『朝鮮王朝実録』など海外の史料から本地方の海外交流の様子がうかがえ、海上ネットワークを駆使して松浦党の活躍したところである。また、近世初頭には、平戸にフランシスコ・ザビエルを迎え、ヨーロッパとの交流の端緒を開いた地でもあった。このように古代から近世に至るまで常に東アジアに向かう交通の要衝地であり続けた当地方は、日本の政治中心地との強い関わりを、海上交通を駆使した国内外との交渉・交易を通して保ち続けた地でもあった。本研究開始時点において、当地方での美術作品にかかわる調査・研究はキリシタン関連作品の分野以外では、仏教美術について渡来仏や日本の美術史上特筆すべき作例に関するいくつかの成果が発表されており、東アジアにおける要衝地であり海上交通を通して国内外との活発な交流が行われてきた当地方の特色は、その成果からある

程度示されていた。しかし、キリシタン関連の美術作品研究の進捗状況に比して、その分野以外の調査対象や研究内容は断片的なものにとどまっており、当地方を広範にわたって見渡した研究や松浦党の活躍、他地域との関係など当地方の歴史的・地理的な様相と個別の作品との関わりについての研究は、いまだ充分進んでいるとはいえない状況であると考えられた。そこで、より網羅的・悉皆的に調査・研究を行うことにより、その特色の詳細が一層解明されることが推察された。

２．研究の目的

古来他国に向けての日本の玄関口であり、東アジアにおける海上ネットワーク上の要衝地であり続けた松浦・平戸地方を悉皆的に調査・研究しようとする本調査・研究により、これまで注目されてきた中国・朝鮮の美術作品にくわえ、日本国内の資料が見いだされることは確実である。そのことにより、仏教美術作品を通して国内外との交渉・交流が活発に行われた当地方の地域的な特色を浮彫にすることが可能となり、東アジアの境界において海民の統括者として当地方で活躍した松浦党が、国内外の文化をどのように受容してきたか、その実像が明らかになると想定される。

本調査・研究は、松浦・平戸地方を通じて、東アジアの境界における文化の受容と継承の様相をあきらかにしようとするものであり、当該地域の研究にあらたな資料と視座をもたらすことはもちろんのこと、東アジア世界の交流史全体を見渡すうえでも、大きな成果をあげることを目指していく。

３．研究の方法

2007 年度から 2008 年度にかけて、平戸市と松浦市を中心として、東アジアにおける境界地域に含まれ、松浦党の活躍した地域の現地調査を行うこととした。

2007 年度は当地方の自治体史・松浦党関係資料集・これまでの当地方における文化財調査報告など現地調査を進めるために有用な資料の充実を図り、その内容を参照しながら、現地に詳しい長崎県・佐賀県に所属する仏教美術及び日本史研究者、関連自治体の教育委員会に助言と協力を求めて、唐津市、松浦市、平戸市に所在する寺院・文化施設所蔵の仏教美術の調査を行った。2008 年度は前年度に引き続き研究協力者から情報の提供を受けながら、地誌や松浦旧記に基づき調査対象を検討し、主に平戸市内の寺院調査を進めた。それぞれの調査は、研究代表者、研究分担者（研究開始当初）が中心となり、適宜九州内の博物館・美術館・大学に所属する仏教美術研究者及び日本史研究者に協力を求め、調査計画を進めていく上で重要となる文献資料の解釈と地域状況の把握、詳細な調査記録の収集と作品分析、さらに作品の画像撮影を行った。

各調査対象については形状・保存状態・制作年代や制作地についての推定など詳細な調査記録とそれに伴う調査対象のデジタルカメラによる画像撮影、適宜 35mmフィルム、ブローニー版フィルム、４×５フィルムによる画像撮影を行った。正確な調査記録のためには前述した撮影による画像記録は必要不可欠である。調査には適切な記録画像の撮影に習熟した数名の構成員で赴き、調査対象に対する複数の研究者による検討を行うことのより、推定を余儀なくされる可能性の高い文化財の制作年代や制作地についての考察の精度を高めるように努めた。

調査の成果は研究代表者・研究連携者・研究協力者で共有することとし、調査終了後も個別の作品についての制作年代、制作地についての検討を進める。

４．研究成果

2007～2008 年度に調査を終え確認できた事項の一部を、調査地別・所在ごとに以下に列記していく。〔　　〕内には現時点での推定制作年代と、調査により銘文の確認されたものについては「／」以下に簡略にその内容を示している。

（１）平戸市での調査

瑞雲寺

木造大日如来坐像〔桃山～江戸時代〕

平戸市田平町里田原歴史民俗資料館

懸仏 20 面

〔正応 4 年を含む鎌倉～室町時代〕

阿弥陀寺

木造地蔵菩薩坐像〔室町時代〕

銅造十一面観音菩薩坐像懸仏尊像

〔鎌倉～南北朝時代〕

銅造十一面観音菩薩坐像

〔江戸時代〕

銅造如来形坐像〔明時代／洪武 29 年銘〕

普門寺

木造聖観音菩薩坐像

〔江戸時代／元禄 6 年記銘〕

木造盤珪禅師倚像

〔江戸時代／元禄 13 年造立銘〕

木造足利義教公坐像

〔室町～江戸時代／宝永元年の彩色銘〕

松浦史料博物館

木造阿弥陀如来坐像〔平安時代後期〕

妙観寺

釈迦三尊十六善神画像

〔鎌倉時代～南北朝時代〕

刺繍涅槃図〔江戸時代〕

妙照寺　銅造誕生仏立像〔高麗時代〕

（２）唐津市での調査
夕日観音堂
　木造千手観音立像〔平安時代前期〕
愛染院
　木造天部立像〔平安時代後期〕

（３）松浦市での調査
寿昌寺
　木造如意輪観音菩薩坐像
〔南北朝時代／康永３年・幸心作の造立銘、
　天文３年再興と天正五年彩色の墨書銘〕
松浦市立鷹島歴史民俗資料館
　懸仏 54 面〔鎌倉～室町時代〕

（４）佐世保市での調査
浄漸寺
　木造薬師如来坐像〔平安時代後期〕
洪徳寺
　木造女神坐像２躯
〔室町～桃山時代か／天正年間の墨書銘〕

（５）新上五島市での調査
白鳥神社
　銅造不動明王立像
〔江戸時代／貞享３年の造立銘〕
祖父君神社
　石造狛犬〔江戸時代〕
野々観音堂
　銅造如来形坐像懸仏尊像〔鎌倉時代〕
江ノ浜薬師堂
　木造薬師如来立像〔室町時代か〕
常楽院
　木造観音菩薩立像〔室町時代〕
　　注）平安時代の再興像と推察される
　木造女神形坐像（媽祖像か）〔明時代〕
東松寺薬師堂
　木造薬師如来立像〔南北朝～室町時代〕
円満寺
　木造阿弥陀如来立像〔室町末～江戸初〕
極楽寺
　銅造如来形立像〔統一新羅時代〕
専念寺
　銅造誕生仏立像〔明時代〕
　木造阿弥陀如来坐像〔室町時代〕
　銅造如来形坐像〔明時代か〕

　そのほか、平戸市・最教寺については、予備調査を実施し虚空蔵菩薩坐像〔江戸時代〕、松浦久信公坐像〔桃山時代か〕、媽祖像 2 躯〔明時代〕、銅造釈迦如来坐像〔明末～清時代〕、銅造如来仏頭〔高麗時代〕などの存在を確認しており、平成 21 年 4 月に本調査を実施する予定となっている。
　2 年間の調査結果にみられる多彩な状況は、海上ネットワークを通じて国内外との活発で継続的な交流が行われたことによる当地方における様々な美術作品の受容、古来連綿となされてきた当地方における豊かな仏教文化の形成とその継承の様相を如実に物語るものである。中国・朝鮮からもたらされたと推察される作品や中国の影響を受けたと考えられる作品は他国との活発な交渉・交流を行った当地方における東アジア文化の受容の様相を伝え、日本の作品については、各時代の正統的な様式の作品が多く含まれ、政治中心地とのつながりを強く感じさせるものであった。また、松浦党の有力な一族として活動した志佐氏が関わった南北朝時代の造像の銘文からは動乱の時代背景や中世から近世の九州における仏師の活動状況を読み取ることができ、松浦党の流れを汲み当地方で領主として活躍した松浦氏に関わる寺院調査で判明した銘文確認の結果とあわせると、南北朝時代から江戸時代にかけての当地方の領主の信仰や造像・修復の状況、松浦党の動静の一端をうかがうことができる。なお、上記志佐氏ゆかりの寿昌寺・如意輪観音坐像については研究協力者の竹下正博氏により詳細な研究成果が発表されている。そのほかの作例については順次準備を整え発表していく予定である。
　2007 年度から２ヵ年で実施した調査・研究によって、平戸・松浦地方を中心とした地域には中国・朝鮮からもたらされた作品とともに数多くの日本の重要な仏教美術作品が遺存しており、いまだ充分な検証・調査がなされないままであることがわかり、東アジアの境界において海民の統括者として活躍した松浦党が、国内外の文化をどのように受容・継承してきたかをより詳細に解明するためにも、今後当地方において網羅的・悉皆的な調査をさらに進めていくことが重要であることが確かめられた。加えて文化財調査の有力な手がかりとなる近世の文献資料も見出され、今後の調査・研究の見通しをたてることもできた。今後は２年間の当地方での現地調査をふまえ、予備調査のみで本調査実施にまで至らなかった地域をはじめとして、海路を通じて濃密に当地方と関わった周囲の地域も視野に入れながらさらに現地調査を継続し、他国と接する境界地域であり海上ネットワークを駆使して国内外と密接にかかわり続けた当地方における美術作品の受容と継承の様相をなお一層明らかにしていきたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　１件）
竹下正博、肥前松浦寿昌寺の如意輪観音像、

ＭＵＳＥＵＭ、有、614、2008、27～47

６．研究組織
(1)研究代表者
中西　真美子(NAKANISHI MAMIKO)
崇城大学・芸術学部・講師
研究者番号:60331071

(2)研究分担者
菊竹　淳一(KIKUTTAKE JUNICHI)(2007 年度)
九州産業大学・芸術学部・教授
研究者番号:10000374
錦織　亮介(NISHIGORI RYOSUKE) (2007 年度)
北九州市立大学・文学部・教授
研究者番号:80047729

(3)連携研究者
菊竹　淳一(KIKUTTAKE JUNICHI)(2008 年度)
九州産業大学・芸術学部・教授
研究者番号:10000374

(4)主な研究協力者
有木　芳隆・熊本県立美術館
伊藤　信二・九州国立博物館
石原　浩・八代市立博物館
大石　一久・長崎県文化振興課
大倉　隆二・熊本県立美術館
木山　貴満・熊本県文化企画課　松橋収蔵庫
久家　孝史・松浦史料博物館
末吉　武史・福岡市博物館
竹下　正博・佐賀県立博物館
鳥津　亮二・八代市立博物館
錦織　亮介(2008 年度)